（様式１－１）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立羽山台小学校（NO.１）

学校教育目標	友達と学び合う心豊かでたくましい子供の育成	重点目標	意欲的に学び続ける子供の育成　～みんなで考えて、話し合って、できたをふやそう～ ○　学習の取り組み方の共有（３つの構え　ノートの丸付けや言葉かけ　羽山っ子タイム） ○　学習活動の充実（学習過程の共有「スクラムタイム」「きらりタイム」　根拠や理由付けの明確化） ○　地域人材を生かした教育活動の工夫（地域に愛着をもつ教育活動）

	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
重点目標に関する評価	研究・研修を基盤とした授業改善と授業力の向上に努める。	○　学習指導の充実 ・１単位時間の学習過程の共有	（教育活動己評価） ・「スクラムタイム」「きらりタイム」実施 【目標】３ｐ以上/４段階	3	○協働的な学びの場の設定と、考えをきちんとつくって学習中に交流したことで、定着してきた。 △1単位時間の配時構成の改善が必要。	A	・自己評価は適切である。 ・一年通しての日々の積み重ねが「定着」に結びついた事は大きな成果である。	・考えをつくるためのスクラムタイムや自分の伸びを実感するきらりタイムは学習の上で必要な活動であるため、継続実施する。 ・スクラムタイムを更に充実させるため、教師が視点を明確に示した上で、児童に考えをつくらせるようにする。 ・きらりタイムでは、教師が示した視点に沿った児童の考えの変容を見取った上で、価値付けるようにする。 ・学習以前の忘れ物ゼロを家庭と協力して取り組む。また、返事や発表時の張りのある声など、指導を徹底する。 ・羽山っ子タイムの活動内容の工夫と、国語・算数のバランスを考えた活動とする。 ・学習内容に適したGTの活用と、探究的・問題解決的学習となるよう工夫する。
		・授業において （１）「わくわく　納得導入」 （２）「山場のある展開」 （３）「学習したことが明確な週末」の実施	〈福岡県版授業評価ｱﾝｹｰﾄ〉 項目①「課題意識を喚起するための工夫」 項目③「自己調整しながら自力解決」 項目④「考えを広げ深める」工夫 項目⑥「学びの変容を自覚する」工夫 【目標】4項目　3p以上/4段階	3	○学習の導入段階での工夫を行い、学習に意欲的に向かわせることができていると考える。また、ｽｸﾗﾑﾀｲﾑでの交流による考えをきちんとつくらせるところはできている。 △自分の伸びを自覚する部分が時間不足になる傾向がある。	A	・自己評価は適切である。 ・多くの学年が前年度より結果の伸びが見られるので、その要因を分析し、職員全員で共通理解し取り組んでいけば次年度にさらにつながっていくと思うので期待したい。	
		・学力アップ非常勤講師を活用したTT学習及び習熟度別学習の実施	〈市販の単元ﾃｽﾄ〉（国語「読むこと」、算数「数と計算」） 【目標】80点以上が75％	2	○学力アップ非常勤講師配置学年は定期的な打合せにより共通実践ができたが、点数にこだわる授業づくりが必要である。	A	・自己評価は適切である。 ・国語の学校というイメージがあるため、更なる向上を期待する。	
		○　家庭学習の習慣化 ・ﾀﾌﾞﾚｯﾄﾄﾞﾘﾙやﾀﾌﾞﾚｯﾄを活用した家庭学習の工夫	〈教育活動評価〉 【目標】ﾀﾌﾞﾚｯﾄ活用実施率60％（週5日以上）	4	○学習過程の導入での問題提示や交流場面での考えの共有、比較など、効果的に活用した授業づくりができた。	A	・自己評価は適切である。 ・目標達成は先生方の意識が生み出したいい流れであると考える。	
	規範意識を身に付け，自尊感情の向上を図り、地域を愛する心をもって人と関わることができるよう努める。	○　学習規律の徹底 ・身構え、物構え、心構えを身に付けさせる指導の徹底	〈教育活動評価〉 「身構え・物構え・心構え」の指導の実施 【目標】3.5p以上/4段階	3	△きちんと時間割ができておらず、忘れ物が見られ、家庭との密な連携と、指導の徹底が必要である。	A	・自己評価は適切である。 ・学ぶ意味を理解させた上で登校する意識の指導を期待する。	
		○　教育課程外の時間を活用した非認知能力向上 ・羽山っ子タイムの計画的実施	〈教育活動評価〉 ・「羽山っ子タイムの計画的実施による非認知能力の向上」の項目 【目標】3.2p以上/4段階	2	△羽山っ子タイムの内容と取り組み方を限定してしまい、学年に応じたものになっていない。児童の実態を考慮した柔軟な取組が必要。	A	・自己評価は適切である。 ・非認知能力の向上には時間が必要であるため、具体的な取組の継続を組織的に行っていく必要がある。	
		○　地域に愛着をもてる教育活動の工夫 ・地域のｹﾞｽﾄﾃｨﾁｬｰを活用し、地域の課題解決を図る学習の実施	〈教育活動評価〉 ・「地域のｹﾞｽﾄﾃｨﾁｬｰを活用した学習活動の工夫」 【目標】3.5p以上/4段階	3	○環境の専門家や地域のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに指導いただき、つながり・かかわりが高まり、学習内容が充実した。	A	・自己評価は適切である。 ・各教科の学びにも繋がるため、充実することを期待する。	
	基本的生活習慣を定着させ，健やかな心と体を育成する。	○　定期的な運動の実施による体力向上 ・体育学習時の導入でのなわとびの実施	〈子供おおむた体力検定〉 ・おおむたっ子ﾁｬﾚﾝｼﾞｶｰﾄﾞの活用 【目標】100％	4	○年度当初から、体育科学習導入時になわとびをする共通実践により、準備運動の代替となった。	A	・自己評価は適切である。 ・幼稚園等でも慣れ親しんだなわとびの活用はとても価値がある。	・体育部を中心としたなわとび検定の実施と定期的な記録の集約・掲示により意欲を喚起する。 ・全員遊びは学級で話し合ったり、みんなで実践したりする大切な取組であるため、継続する。
		○　教育課程外での体力向上の取組の実施 ・全員外遊びの奨励	〈体力向上アンケート〉 ・全員外遊びの実施 【目標】週1回以上：80％以上	3	○全員外あそびの日を決め、共通実践できた。高学年になると委員会活動もあり、実施不可日もあった。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・自分の役割を行っているため、指標の設定を変更するとよい。	
いじめ防止	いじめの未然防止・早期発見に向けた組織的な取組を行う。	○　指導の充実 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく生徒指導部会での確実な情報共有	〈校内いじめ防止対策委員会〉 ・いじめの認知件数の確実な把握及び解消に向けた取組率 【目標】100％	4	○いじめｱﾝｹｰﾄ、生活ｱﾝｹｰﾄの確実な実施と学期1回の全児童対象の教育相談、及び面談を随時実施できた。	A	・自己評価は適切である。 ・いじめ事案への丁寧な対応は評価できる。継続を期待する。	・各種アンケートの確実な実施と、全児童への面談による実態の把握を徹底する。 ・「さん」付けで名前を呼ぶことの徹底と、「ありがとう」の声がこだまするような学級経営を実践する。 ・アンケート回収の徹底を継続し、児童への面談を確実に行うことを継続する。
		○　児童同士の共感的人間関係の浸透 ・学級目標を意識した学級経営と学級活動（１）の確実な実践	〈学校生活アンケート〉 ・「友達との関係」 【目標】1.2p以上/-2p~2p	3	○学習中のきらりﾀｲﾑを年度当初から、実態に応じ学習中の位置付けや視点を検討しながら取り組み、他者評価や教師の価値付けが行えた。	A	・自己評価は適切である。 ・臨機応変に視点を変え、新たな形を実践してきた成果が出ていると言える。	
		○　アンケートによる定期的な調査の実施 ・学校生活ｱﾝｹｰﾄ（年3回）それ以外（年9回）、家庭用早期発見ｼｰﾄ（年3回）	・学校生活アンケート，生活アンケート結果を基にした児童への聞き取りや支援の実施率 【目標】100％	4	○各種ｱﾝｹｰﾄを活用した面談週間を決め、確実に実施できた。	A	・自己評価は適切である。 ・確実な実施であり、学校経営の重点化が図られている。	
不登校防止	不登校の未然防止や不登校に対するきめ細かで持続的な支援を行う。	○　学校・家庭・関係機関との密な連携 ・魅力ある学校生活づくりの工夫	〈学校生活アンケート〉 「登校意欲」 【目標】1.0p以上-2p~2p	4	○学校に元気に登校できている児童がたくさんいる。朝一の地域の方の声掛けは大きい。	A	・自己評価は適切である。 ・地域と連携した見守り活動の浸透が心の教育を育んでいる。	・「笑顔」で「出迎え」をキーワードとし、指導の焦点化を図る。 ・教師が児童の名前を呼びながら表情を観察し、健康観察を行う。 ・担任、教育相談担当、管理職の共通理解によるチームサポート体制の強化を図り、効果的に児童の不登校解消に取り組む。
		・「羽山台ｱｸｼｮﾝ３」による未然防止に向けた組織的な取組	〈教師自己評価〉 ・羽山台ｱｸｼｮﾝ3のｽﾃｰｼﾞ１（未然防止ｱｸｼｮﾝ） 【目標】20p以上/ 24p　【結果】19p	3	○児童を積極的に褒めることを学習中も実践できた（教師及び児童同士の相互評価活動）。 △児童の出迎えに課題が残った。	A	・自己評価は適切である。 ・子供を出迎える事の効果は絶大であるため、率先した取組を期待する。	
		・長期欠席児童とのつながり強化の取組	・SC,SSWへの繋ぎやｵﾝﾗｲﾝ授業等の実施率 【目標】100％	4	○養護教諭の積極的な働きかけにより、SCやSSWを効果的に活用できた。	A	・自己評価は適切である。 ・継続した活用の工夫を期待する。	
働き方改革	教職員が児童と向き合う時間を十分に確保して，学校教育の質を維持・向上を図る。	○　教職員の意識改革 ・時間外勤務時間の把握と縮減 ・週１回の定時退校日の設定 （水曜を基本とした自己申告日に実施）	〈教育活動評価〉 ・超過勤務時間４５時間以内 【目標】80％ ・水曜日を基本とした自己申告日に実施 【目標】実施率70％	3	△毎月の勤務時間の45時間以内は不十分な取組である。業務の精査と時間を無駄にしないマネジメントが必要である。 ○週1回自己申告日に19時までに退校については達成できている。	A	・自己評価は適切である。 ・職員は児童としっかり向き合っていると見える。そのための頑張りは評価に値する。そのため、自己申告日の徹底を行うことが望ましいと考える。	・掲示板に、各自の定時退校日を記し、見える化して全員で定時退校を意識できる環境をつくり、週１回は定時退校するよう、強化週間などの取組を行う。 ・地域ボランティアへの定期的な除草作業の依頼（前期２回、後期１回）の支援要請を行い、きれいな学校環境づくりに努める。
		○　地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとの協働活動の実施 ・はやマッスル隊（地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体）との協働活動	〈地域関係団体活用〉 ・はやマッスル隊による学校環境支援活動の実施 【目標】年2回以上	4	○跳び箱台車づくり（6月）と草刈り（9月）を地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体から行っていただいた。おかげで除草作業がｽﾑｰｽﾞで、台車により学習準備が容易となった。	A	・自己評価は適切である。 ・地域との連携がよくできているため、時期を検討し、さらに協働してもいいと思う。	

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである

（様式１－２）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立羽山台小学校　　ＮＯ２

評価計画						自己評価		学校関係者評価		改善計画
	領域	評価の観点		評価指標（①取組指標または②成果指標）		評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
総括的評価	教育課程 学習指導	○	週案の作成と効果的な指導方法の工夫	①	２週間を見通した週案作成と提出及びコメント書き	4	○ 提出があればすぐにｺﾒﾝﾄを書き、指導・助言ができている。 ○ 88.9%の実施率であり、共通理解の場が確実に確保でき、共有できている。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 見通しが持てることで、業務を計画的に行え、業務の平準化にもつながるので、２週間を見通した週案作成はよい取組と考える。	・ 次年度も２週分の週案形式とし、見通しを持って取り組めるようにするとともに、振り返り欄の記述への指導・助言を継続して行うことで、共通実践となると考える。
		○	授業改善	②	学力向上プランの共通理解・共通実践、及び工夫改善（自己評価：実施率 75%）	4		A		
	進路指導	○	学力の定着	①	学力アップ非常勤講師を活用した学習内容の確実な習熟（学年に応じた取組工夫）	4	○ 非常勤講師配置学年（2，3 年）は市販テストの結果が 4 学級とも向上した。 ○ 夏休みの合同研修。田隈中校区での情報交換会で共通理解が図れた。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 非常勤講師のおかげでより多くの児童に目が行き届き、指導の充実が図られ、効果的な取組となっている点は評価できる。	・ 学級内の安定した人間関係や協働した学びによる学級経営を目指し、共通実践と各担任の創意工夫を組み合わせることで、テスト等の伸びも期待できると考える。
		○	中学校への不安解消	①	現中学校区及び新中学校区との情報交換と共通理解	4		A		
	生徒指導	○	基本的な生活習慣の育成	①	職員・保護者・地域と連携した挨拶・見守り運動の実施と家庭学習強化旬間の実施	4	○ 職員による月１回の挨拶運動（輪番）の確実な実施を行った。 ○ 各種ｱﾝｹｰﾄの確実な実施及びいじめの訴えへの面談対応が確実にできている。そのため、いじめ認知事案発生件数の減少につながっている。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 学校、地域、保護者間の連携ができており、誰一人取り残さないという先生方の子供たちへの深い愛情を感じ、大変ありがたい。 ・ アンケート実施後の対応が重要であり、適切に取り組まれていることは素晴らしい。	・ 次年度も職員の挨拶運動を継続する。また、各種アンケートの確実な実施と、全児童対象の教育相談（学期１回の面談）と、日常の丁寧な聞き取りを行い、トラブルが起きても双方納得のいく話合いの場を設定して、解決にあたる。
		○	いじめ・不登校への組織的対応	②	各種アンケートの確実な実施と迅速な集計による実態把握	4		A		
		○	問題行動への対応	②	各種アンケートを活用し、全児童を対象とした教育相談の確実な実施（学期１回）	4		A		
	保健管理	○	児童への健康指導・健康管理	①	保健目標に応じた掲示物・保健便りの作成児童の表情を見た健康観察の実施	4	○ 毎月の保健便りの発行及び掲示物の工夫により、児童の健康への関心も高まっている。 ○ アレルギー会議の確実な実施ができた。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 児童の表情を毎朝見て、変化にもいち早く気付くことができていると思う。 ・ ｱﾚﾙｷﾞｰ対応も確実に行われ、評価に値する。	・ 担任による児童を呼名しながらの健康観察の実施による児童の心身の健康状態の把握を行う。
		○	食物アレルギー児童の対応	②	毎月の食物アレルギー対策会議の実施	4		A		
	安全管理	○	安全点検	②	月１回の安全点検の実施と危険個所の改善	3	○ 安全点検における修理等の迅速な対応を協議しながら、予算を効果的に使う工夫をして修繕等を行った。 ○ 各種教室や訓練は計画通り実施できた。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 安心・安全な学校づくりが進められ、児童にとって居心地がいい環境であると言える。 ・ 安全に関する様々な取組も行われ、継続した取組を期待する。	・ 修理場所の迅速で的確な把握を行うために、月１回の点検時に、児童の協力による報告も合わせた安全点検と、事務職員と協議した施設改善に努める。
		○	安全教育	①	交通教室、火災避難訓練、不審者対応避難訓練、防犯教室、総合避難訓練の実施	4		A		
	特別支援教育	○	特別支援教育推進体制	②	月 1 回の生徒指導委員会における配慮が必要な児童の情報共有	4	○ 生徒指導委員会において、配慮を要する児童の情報共有を行い、欠席日数と児童の様子との比較、人間関係でのトラブル等の情報共有を確実に行い対応できた。	A	・ 自己評価は上方修正すべきである。 ・ 配慮を要する児童について共通理解を図る機会が設定され、多くの大人がしっかり向き合っていることは、児童にとっても安心した居場所であると実感できていると考える。	・ 配慮を必要とする児童の実態と個別の指導計画・支援計画が連動した支援の在り方を定期的（学期１回、適宜）に見直し、効果的な支援に努める。
		○	特別支援教育への共通理解	②	学期ごとに個別の指導計画・支援計画を見直し、教育的ニーズに応じた指導の実施	2		B		
	組織運営	○	校務分掌の機能化	②	重点目標達成に向けた取組の見直しを３部会で学期ごとにおける実施	3	○ １学期の学習状況や授業に様子から、授業改善に係る取組の見直しを行い、共通実践ができた。 △ 各種担当を更に機能させることで、協働した取組となると考える。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ １学期段階で見直しすることを実践しているところは大いに評価すべき点である。 ・ 更に機能の充実という課題を設定しており、次年度の成果を期待したい。	・ 学級訪問の効果的・効率的な実施による重点目標達成に向けた組織的取組を行う。 ・ 各種担当者が年間の取組計画を見える化し、見通しをもった共通実践となるよう工夫する。
		○	職員の学校経営参画意識の向上	①	各担当による計画立案・役割分担・実施・反省のサイクルによる取組の実施	2		A		
	研　　修	○	校内研修の推進	②	講師招聘による年３回以上の主題研修・一般研修の実施	4	○ 主題研を３回、一般研１回、講師招聘により研修を深めた。 ○ ２学期当初に不登校を主ﾃｰﾏに講師招聘による研修会を実施した。 ○ 月１回の不祥事防止研修は確実に実施できた。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 専門家の話を聞くことは業務を行う上でたくさんの学びとなっていると考える。 ・ 研修テーマの焦点化により、課題解決の方途も具体的になってくると思う。 ・ 継続した研修機会の確保を期待する。	・ 一般研において、年度当初の研修計画を具体的に行い、「いつ」「だれが」担当で実践するかを見通しを持って取り組んでいく。 ・ 不祥事防止研修も各月分担して担当者を輪番にし、主体的な研修態度の育成を図る。
		○	一般研修の推進	①	教育課程に係る研修の計画に沿った実施	4		A		
		○	不祥事防止に向けた取組の推進	②	不祥事防止研修の確実な実施（月１回以上）	4		A		
	教育目標 学校評価	○	重点目標達成状況の把握	②	週案による重点目標実施状況への指導助言（２週に１回）	4	○ 担任の２週間単位の週案作成と学力向上プランに基づく授業づくりの自己評価への指導・助言は確実に行えた。 ○ 教育活動評価への回答や次の学期への取組を伝え、実践してきた。	A	・ 自己評価は上方修正すべきである。 ・ 重点目標達成に向けた取組が行われているので評価に値する。 ・ 成果や課題のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの仕方を工夫し、充実した取組へと発展することを期待する。	・ 各担任の取組の結果の集約と、指導と評価が一体化するよう指導・助言を定期的に行う。また、担任の困っている部分も聞きながら、学級経営がよりよくなるよう指導助言を行う。
				②	学期１回の重点目標達成に向けた教育活動評価の実施及びフィードバック	3		B		
	情報提供	○	情報提供によるネットワークの確立	②	学校教育活動の様子を発信する、学校だより（月２～３回）やＭﾎﾞｰﾄﾞ（毎日）の取組	4	○ 学校だより「ﾁｰﾑ羽山台」の発行と、毎日のＭﾎﾞｰﾄﾞの発信により、保護者や地域の方に教育活動の様子を伝えた。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 学校だより発行や Ｍ ﾎﾞｰﾄﾞ更新が頻繁に行われており、情報発信が密でありがたい。	・ 校長・教頭・教務それぞれの視点からのＭボード作成及び情報発信を行うなど工夫する。
	保護者・ 地域との 連携	○	保護者・地域住民等との連携による一体となった取組の推進	①	授業参観、学級懇談会、個人懇談会の計画的な実施	4	○ 授業参観を 1、2 学期に実施し、個人懇談会を２学期末に実施した。保護者と話し合うことができた。 ○ PTA と連携した挨拶・見守り運動の実施と結果の集約を工夫して行った。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 授業参観や個人懇談の実施により、保護者は自分の子どもの姿を見れ、嬉しいと思う。 ・ 保護者との連携を今後も進め、児童の成長に繋がるよう更なる工夫を期待する。	・ 年度当初に年間行事予定を保護者に配布し、保護者が来校する機会を確保するとともに、PTA と協働した挨拶見守り運動を継続する。
				①	保護者・地域と協働した挨拶・見守り運動やと総合的な学習の時間等の実施	4		A		
	教育環境 整備	○	教育活動の効果的実施に向けた教育環境整備	①	学校の特色を生かした環境の整備（掲示板等）	4	○ 評議委員による季節感あふれる掲示板を作っていただいており、とても心が洗われている。 ○ 年度当初、備品整理を実施した。	A	・ 自己評価は適切である。 ・ 学校職員以外の協力を得た活動は学校と地域の良好な関係と見え、喜ばしい。 ・ 備品整理により、活動の効果が期待できる。	・ 掲示板の工夫による言語環境の更なる向上と、豊かな心を育む環境づくり等、温かい雰囲気が感じられる環境づくりを行う。
				②	備品の整理（学期１回の実施）	4		A		

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０%以上）　３：ほぼ達成（７０%～９０%）　２：もう少し（６０%～７０%）　１：できていない（６０%未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである